

浅羽海岸ににぎわいと笑顔を生み出す

コーディネート

地域おこし協力隊 本間正人さん

「開放感あふれる広い空、雄大な海、そして温かい市民。袋井の生活は毎日新しい出会いや発見にあふれています」

同笠の海を眺めながらそう語るの  
は、本間正人さん・49歳。神奈川県横  
浜市から移住し、今年1月から、本市  
の地域おこし協力隊に着任。「海のに  
ぎわい創出コーディネーター」とし  
て、海岸地域の魅力発信や、地域資源  
を生かした企画などに取り組んでい  
ます。

やりがいを感じた子ども食堂の企画

東京都内の社会福祉施設に勤務し  
ていた本間さんは、人と人とのつな  
がりの希薄化を感じる中で、食に課  
題を持つ子どもがいることを知り、  
地域や多世代が交流できる子ども食  
堂を開設します。

子ども食堂では旬の野菜を食べて  
もらいたいと考え、施設内の空き地  
に菜園を作り、地域のボランティア  
スタッフと一緒に管理を行う  
ことにしました。

「地域の方たちは、野菜の成長だけで  
なく子どもの成長も見守ってくれま

した。この菜園からコミュニティが  
つながっていくことに、とてもやり  
がいを感じましたし、おいしそうに  
野菜を食べる子どもたちの姿を見  
たのがうれしかったですね」

地域おこし協力隊の道へ心機一転

転機が訪れたのは昨年夏のこと。  
人生の新たなステップを探っていた  
ある日、たまたま見ていたサイトで、  
地域おこし協力隊の存在を知りまし  
た。地元の方と協力しながら地域の  
課題解決に向けて活動ができる仕事  
に興味を持ち始めます。

多くの自治体の中から、「海」を  
キーワードとした本市の募集に惹か  
れた本間さん。「地域のコミュニティ  
とのつなぎ役の経験や、趣味のサー  
フィンや釣りなどを生かすことがで  
きるかもしれない」と考え、本市の地  
域おこし協力隊への応募を決意しま  
した。

袋井市の魅力を実感

本間さんは、地域おこし協力隊へ  
の応募にあたり、初めて本市を訪問  
した時の「空の高さ」と開放感が今  
でも心に焼きついているそうです。

「もともと空が好きで、訪れた先でよ  
く空を見ていますが、高くて広い袋  
井の空はとても印象に残っていま  
す。平地で遠くまで見渡せる開放感  
も心地良く感じました」

また、釣りに訪れた際には、地域の  
方の温かさにも感激します。

「釣った魚の処理の仕方などを地域  
の方が優しく教えてくれたんです。  
このような温かい方たちと一緒に、  
この地域を盛り上げたいと強く感じ  
ました」

その熱い思いを胸に、本間さんは  
本市の地域おこし協力隊に着任する  
こととなりました。

みんなが楽しめる海に

「浅羽海岸は、白砂青松の美しい海岸  
線と立派な防潮堤を合わせ持ったと  
ても魅力的なエリアです。現在整備が  
進められている施設なども生かしな  
がら、「こを子どもから大人まで、ど  
の世代でも楽しむことができ笑顔  
あふれる場所にしたいですね。そのた  
めに地域の方々と積極的に交流して  
いきたいです」

本間さんの挑戦は動き出したばかり。  
これからどのようなアイデアが生  
み出されるか楽しみが尽きません。



本間さんの活動を  
Instagramで  
紹介しています。